



なるほど！医療講座

著：串間市民病院 産婦人科医師
河崎 良和
かわ きよ よし かつ

126人、産まれました

【表1】串間市民病院での出産数

平成 17年	64人
平成 18年	105人
平成 19年	94人
平成 20年	97人
平成 21年	106人
平成 22年	126人

【表2】妊婦の内訳 (平成 22年)

串間市在住	67人
串間市に里帰り	42人
志布志市在住	17人
合計	126人

平 成22年、市民病院では126人の赤ちゃんが産まれました。当院の産婦人科は平成11年に開設されました。旧病院のころは年間の出産数は50人程度でしたが、平成17年に新病院になってからは毎年100人程度の赤ちゃんが産まれています(表1)。

昨年出産した126人の妊婦さんの内訳は、串間市在住の妊婦さんが67人、出産のために実家のある串間市に里帰りして来た妊婦さんが42人、志布志市在住の妊婦さんが17人でした(表2)。

さらに多くの妊婦さんに当院で出産をしていただきたいと思います。なお、里帰り出産をご希望の妊婦さんは、あらかじめ産婦人科外来(☎0987-72-1234)までお電話をいただくと助かります。今回は当院の産婦人科を写真で紹介いたします。



産婦人科外来



妊婦健診



マタニティクラス



分娩室



個室



沐浴指導



新生児室



生後6日目

学校へ行こう

1年生から3年生まで、お互いが助け合いながら充実した学校づくりに取り組んでいます。



学ぶ生徒、鍛える生徒、誇る生徒を目指して

自ら進んで学習し、郷土への誇りと愛情を持った生徒像を目指しています。

触れ合いを楽しむ



小中合同遠足

4月に市木小学校と合同で行う遠足は、小学校との交流を深める大切なイベントです。中学生と小学生の組み合わせでグループを作り、目的地の石波海岸では、グループごとに砂の造形を作成し、完成した作品はお互いに採点して順位を決めます。昼食後は全員参加のレクリエーションで交流を深めます。最後は全員で清掃を実施。自分たちのごみだけでなく、すべてのごみを持ち帰ります。

今回紹介するのは、串間市立市木中学校(田村浩一校長)全校生徒15人、職員10人の中学校です。

市木中学校は「豊かな感性、優しさ、たくましさを持つ21世紀を生きる生徒の育成」を目標に、全員が「丸」となつて学校づくりに取り組んでいます。

生徒たちの自主性が市木中学校の特徴です。学校活動のさまざまなところで生徒たちが中心となつた活動が行われています。

毎年1月に行われる百人一首大会は生徒たちが主役。大会に向けての練習は、3年生が中心となつて全校生徒で実施します。大会は4つのチームに分かれての団体戦。異学年のチーム対抗戦で競い合います。積み重ねてきた練習の成果を発揮する、もつとも盛り上がる行事の一つです。

地域との交流も大切な行事の

一つです。毎年12月には市木デイサービスを訪問。地域の高齢者の方々と一緒に、折り紙やミニゲームなどを行います。生徒たちとの触れ合いを高年齢者の方々も楽しみにしています。

学校同士の連携も大切に行っています。運動会は中学校、保育所、小学校の合同で実施。中学生がリーダーを務め、保育所や小学校の子どもたちの頼れる先輩となるよう、先頭に立ってみんなを引っ張ります。

田村校長は「赴任してきたときに、生徒、職員みんなで迎えてくれたことが今でも忘れられません。みんな仲が良く優しい子どもたちなので、その点を大事にしていきたいと思っています。まじめさや誠実さが一番大事です。何事にもまじめに取り組む生徒になつてほしいですね」と話していました。